

平成28年度自転車製品事故情報<消費者庁公表>の収集について
(自転車等研究開発普及事業・自転車等技術支援)

(一財) 自転車産業振興協会 技術研究所

■はじめに

当協会・技術研究所では、自転車等研究開発普及事業・自転車等技術支援の一環として、自転車の品質確保と品質改善に寄与することを目的として、消費者庁が公表している自転車に関連する重大事故情報を収集したので、その概要を報告する。

■平成28年度消費者庁公表の事故情報

消費者庁の重大製品事故情報は、製造事業者・輸入事業者からの事故報告を受けて公表されるが、公表の際、事故情報の分析を行い事故が製品に起因して生じたものか否かを区別して行っている。事故が製品に起因していると疑われる場合は事業者名、機種・型式、事故の内容等を、それ以外のものは事故の概要のみを消費者庁のHP等で公表している。

技術研究所では、消費者庁が公表した重大製品事故情報のうち、自転車関連情報については公表され次第、速報として技術研究所のHPに掲載して注意喚起を図っている。

平成28年度自転車関連の重大製品事故情報として掲載した事例は20件であり、その内訳は、**表1**に示すとおりである。事故件数は前年度36件に比べて16件減少した。製品別では自転車の事故情報は10件で前年度よりほぼ半減した。また、折りたたみ自転車は0件で前年度より5件減少した。電動アシスト自転車は4件で前年度より2件減少した。電動アシスト自転車用リチウムイオンバッテリーの充電中による火災事案が6件と前年度より2件増加した。なお、事故情報の一覧は**表2～表4**に示す。

また、自転車関連の重大製品事故20件のうち、製品に起因していると疑われる事故は12件で前年度14件より2件減少した。残りの8件は、製品起因か否かが特定できていないが、事故調査・原因分析を継続して行っているため、今後、原因等が特定される場合がある。

表1 自転車関連製品事故情報件数

製品名		自転車	折りたたみ自転車	電動アシスト自転車	バッテリー	合計
件数	27年度	21 (6)	5 (4)	6 (0)	4 (4)	36 (14)
	28年度	10 (4)	0 (0)	4 (2)	6 (6)	20 (12)

() 内は製品起因が疑われる事故

■製品ごとの報告内容概要〔事故内容・原因等は表2～表4を参照〕

○自転車

10件の情報があり前年度よりほぼ半減している。そのうち、製品起因が疑われる事例は、前年度の6件から4件とやや減少傾向がみられる。その事故内容は、フロントフォークの破損（2件）、クイックリリースの調整不良（1件）、ハンドル緩み、前輪ロック（3件）など、乗員の身体に重大な影響を及ぼす事例が報告されている。また、原因が特定できない転倒等が4件報告されている。

○折りたたみ自転車

前年度より5件減少して事故事例は0件であった。

○電動アシスト自転車

4件の情報があり前年度より2件減少した。サドル・ブレーキ部のボルト破損（2件）、原因が特定できない転倒等が2件報告されている。

○バッテリー火災（電動アシスト自転車用）

リチウムイオンバッテリーの充電中の火災事例が6件あり、全て製品起因が疑われる事例として報告されている。対象品は一部リコールが実施されている。

■社告（リコール等）について

平成28年度に公表された自転車関連の社告（リコール等）は12件であった。その内訳は、フリーハブの不具合（2件）、フロントフォークの破損、フレーム溶接部・Fフォーク・シートポスト・ヘルメット強度不足、電動アシスト自転車用バッテリー火災（2件）、リアホイール脱落などがあり、経済産業省及び各社のHPにより情報公開されている。

■おわりに

自転車製品事故情報を収集・整理し、それらの情報を分析した上で、必要に応じてJISの改正、技術的課題の解決、原因究明等に繋げていくことが必要であると考え。そのため、技術研究所では環境・安全のための評価分析調査事業の一環として、今後も自転車製品事故情報を継続して収集し、分析等を加えるとともに、必要に応じて製品事故事例が緊急性を要するもの、或いは消費者への波及が心配されるものの原因究明調査等を行い、消費者の安全確保と品質改善に寄与していく所存である。併せて、個々の製造・販売事業者よりの試験依頼、原因究明調査にも対応していくのでご活用をお願いしたい。

以 上

表2 消費者庁公表自転車関連製品事故情報（その1）

管理番号	製品名	事業者名	事故内容	備考
A201600053	電動アシスト 自転車	(株)カイホウジャパン (輸入事業者)	当該製品からバッテリーを取り外して充電中、当該製品のバッテリーを焼損する火災が発生した。	製品起因が疑われる事故
A201600091	自転車		当該製品で走行中、前輪がロックし転倒、負傷した。	製品起因か否かが特定できていない事故
A201600093	自転車	トレックジャパン (株) (輸入事業者)	当該製品で走行中、転倒し、負傷した。事故の原因は、現在、調査中であるが、当該製品のクイックリリース（車輪の固定装置）を不適切に調整したまま乗車したことにより、クイックリリースのレバーが解放され、レバーがディスクブレーキに接触したものと考えられる。	製品起因が疑われる事故
A201600101	電動アシスト 自転車	ブリヂストンサイクル(株)	当該製品に子供を乗せて走行中、ブレーキ部のボルトが破損して前輪がロックし転倒、子供が重傷、保護者が軽傷を負った。	製品起因が疑われる事故
A201600141	自転車		当該製品で走行中、転倒し負傷した。	製品起因か否かが特定できていない事故
A201600157	電動アシスト 自転車（バッテリー）	パナソニックサイクルテック(株)	当該製品のバッテリーを充電器に載せていたところ、当該製品のバッテリー及び周辺を焼損する火災が発生した。	製品起因が疑われる事故
A201600164	自転車		当該製品で走行中、前輪が外れ、転倒し負傷した。	製品起因か否かが特定できていない事故
A201600168	電動アシスト 自転車用バッテリー（リチウムイオン）	(株)THE NeO（輸入事業者）	当該製品を充電中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	製品起因が疑われる事故
A201600214	電動アシスト 自転車用バッテリー（リチウムイオン）	(株)スカイブル（輸入事業者）	当該製品を充電中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。	製品起因が疑われる事故

表3 消費者庁公表自転車関連製品事故情報（その2）

管理番号	製品名	事業者名	事故内容	備考
A201500469	電動アシスト三輪自転車	フランスベッド(株)	当該製品に傾斜地で乗車していたところ、転倒し重傷を負った。調査の結果、使用者が当該製品の購入直後に自立サポート機能の特性を理解せず、また、自立サポート機能に慣れていないうちに左下がりの斜面で当該製品に乗車したところ、速度をあまり出さずに走行したために車体が左側に傾きバランスを保てず左側に転倒し事故に至ったものと考えられる。なお、取扱説明書には、「路面の傾斜や凹凸が大きい場合は転倒する恐れがあるため、三輪自転車から降りて押して歩く」旨、警告表示されているが、当該製品の自立サポート機能や特性に関する警告表示がなかったため、使用者が十分にその製品特性を理解しないまま乗車することにより、バランスを崩して転倒した可能性が高いと考えられ、また、警告表示として高齢者についての配慮も不十分であったことが事故発生に影響したと推定される。	製品起因が疑われる事故
A201600265	自転車		当該製品で走行中、前輪がロックし転倒、左膝を負傷した。	製品起因か否かが特定できていない事故
A201600302	自転車		当該製品で走行中、当該製品のハンドル部が緩んだためブレーキを掛けたところ、転倒し、左肘を負傷した。	製品起因か否かが特定できていない事故
A201600349	電動アシスト自転車		当該製品で走行中、サドルを固定しているネジが破損し転倒、右腕を負傷した。	製品起因か否かが特定できていない事故
A201600377	電動アシスト自転車（バッテリー）	パナソニックサイクルテック(株)	当該製品のバッテリーを充電台に載せていたところ、当該製品のバッテリー及び周辺を焼損する火災が発生した。	製品起因が疑われる事故
A201600387	自転車	(株)マルイ（輸入事業者）	当該製品で走行中、当該製品のフロントフォークが破断し、転倒、左ひざを負傷した。	製品起因が疑われる事故
A201600410	自転車	(株)アキポウ（輸入事業者）	当該製品で走行中、当該製品のフロントフォークが破断し、転倒、右腕を負傷した。	製品起因が疑われる事故

表4 消費者庁公表自転車関連製品事故情報（その3）

管理番号	製品名	事業者名	事故内容	備考
A201600414	電動アシスト自転車		当該製品で走行中、転倒し右手指を負傷した。	製品起因か否かが特定できていない事故
A201600490	自転車	(株)オオトモ（輸入事業者）	当該製品で走行中、前輪がロックして転倒、頭部を負傷した。	製品起因が疑われる事故
A201600540	自転車		当該製品で走行中、転倒し左肩を負傷した。	製品起因か否かが特定できていない事故
A201600588	電動アシスト自転車（バッテリー）	(株)カイホウジャパン（輸入事業者）	当該製品のバッテリーを取り外して充電中、当該製品のバッテリー及び周辺を焼損する火災が発生した。	製品起因が疑われる事故